

参議院議員会館維持管理・運営事業  
(第二期)

基本協定書 (案)

(令和元年9月5日訂正版)

令和元年5月

参議院

# 参議院議員会館維持管理・運営事業（第二期） 基本協定書（案）

参議院議員会館維持管理・運営事業（第二期）（以下「本事業」という。）に関して、支出負担行為担当官●●●（以下「参議院」という。）並びに代表企業（●●）、構成員（●●、●●）及び協力企業（●●、●●。以下、代表企業、構成員及び協力企業を総称して「落札者」という。）との間で、以下のとおり基本協定（以下「本協定」という。）を締結する。

## （用語の定義）

第1条 本協定において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 「事業者」とは、本事業を遂行することのみを目的として代表企業及び構成員により設立される特別目的会社（SPC）をいう。
- 二 「代表企業」とは、落札者の中から落札者を代表するものとして選定された企業をいう。
- 三 「構成員」とは、本事業に関する各業務を事業者から直接受任し又は請け負うとともに、事業者に出資する企業をいう。
- 四 「協力企業」とは、本事業に関する各業務を事業者から直接受任し又は請け負うとともに、事業者に出資を行わない企業をいう。
- 五 「事業契約」とは、参議院と事業者との間で締結する参議院議員会館維持管理・運営事業（第二期）事業契約をいう。
- 六 「事業期間」とは、事業契約で定められた本事業の期間をいう。
- 七 「事業提案書」とは、落札者が本事業に関する入札手続において参議院に提出した本事業の実施に関する提案書類一式をいう。
- 八 「出資者」とは、事業提案書に基づいて事業者の株主となる者をいう。
- 九 「入札説明書等」とは、参議院が本事業に関する入札手続において公表又は配付した一切の資料及び当該資料に係る質問回答書をいう。

## （趣旨）

第2条 本協定は、本事業を対象とした一般競争入札（総合評価落札方式）により、落札者が本事業の実施に関する業務を担う者として選定されたことを確認し、第4条の規定に基づき落札者が本事業を実施するために今後設立する事業者をして、第7条の規定に基づき参議院との間で事業契約を締結せしめ、本事業の円滑な実施に必要な基本的事項を定めることを目的とする。

## （基本的合意）

- 第3条 参議院及び落札者は、落札者が、本事業に関して参議院が実施した一般競争入札【（総合評価落札方式）】により、本事業の実施に関する業務を担う者として選定されたことを確認する。
- 2 落札者は、入札説明書等を遵守のうえ、落札者が事業提案書に示された内容を参議院に対して提案したことを確認する。
  - 3 落札者は、自ら事業提案書に示された内容を誠実に履行するとともに、事業者に、事業契約に基づいた義務を誠実に履行させる。

## （事業者の設立及び維持等）

第4条 代表企業及び構成員は、遅くとも事業契約の締結日までに、入札説明書等及び事業提案書並びに次の各号に定めるところに従い、本事業の遂行を目的とする事業者を設立する。

- 一 事業者は、会社法（平成17年法律第86号）に定める株式会社とする。
- 二 事業者の資本金は、事業提案書に示された金額以上とする。
- 三 事業者を設立する発起人には、事業提案書に示された出資者以外の第三者を含めてはならない。
- 四 事業者の定款の目的には、本事業に関連のある事業のみを記載する。
- 五 事業者の定款には、会社法第107条第2項第1号イに定める事項についての定めを置くものとし、同法第107条第2項第1号ロに定める事項及び同法第140条第5項但書に定める事項に

についての定めを置いてはならない。

- 六 事業者の定款には、参議院の事前の書面による承諾がある場合を除き、会社法第 108 条第 2 項各号に定める事項についての定めを置いてはならず、かつ同法第 109 条第 2 項に定める株主ごとに異なる取扱いを行う旨を定めてはならない。
- 七 事業者の定款には、会社法第 326 条第 2 項に定める取締役会及び監査役の設置に関する定めを置く。
  - 2 代表企業及び構成員は、事業者に、事業者の設立登記の申請後速やかに、設立時取締役、設立時監査役を参議院に通知させる。また、その後、取締役、監査役の選任（再任を含む。）及び退任が生じた場合も同様とする。
  - 3 代表企業及び構成員は、事業者に、事業者の設立登記の申請後速やかに、事業者の定款の原本証明付き写しを参議院に提出させる。また、その後、定款が変更された場合も同様とする。ただし、落札者は合理的理由なく、事業者の定款を変更させてはならない。
  - 4 代表企業及び構成員は、事業期間が終了するまで、事業者に事業譲渡・譲受、合併、会社分割、株式交換、株式移転等の組織変更を行わせてはならない。

（事業者の出資者）

- 第 5 条 代表企業及び構成員は、前条第 1 項の規定に基づき事業者を設立するに当たり、別紙 1 に設立時の出資額として記載されている金額及び数量の事業者の株式を引き受けるとともにその他の出資者をして、別紙 1 に設立時の出資額として記載されている金額及び数量の事業者の株式を引き受けさせる。
  - 2 代表企業及び構成員は、事業提案書に基づき事業者の増資を計画している場合、事業者の設立登記の完了後速やかに、事業者に、別紙 2 の様式による増資計画書を参議院に提出させる。
  - 3 代表企業及び構成員は、事業者の設立時における出資者に、以下の各号に定める事項を誓約させ、別紙 3 の様式による出資者誓約書を事業契約の締結と同時に参議院に提出させる。
    - 一 各出資者は、事業者の株主構成に関し、その時々において代表企業及び構成員によって事業者の全議決権の 2 分の 1 を超える議決権が保有されており、かつ、代表企業及び構成員以外の各出資者の議決権保有比率が株主中最大とはならないことを条件とし、かかる条件を事業期間が終了するまで維持する。
    - 二 各出資者は、事業期間が終了するまで事業者に対する株式（潜在株式を含む。）を保有し、参議院の事前の書面による承諾がある場合を除き、譲渡、担保権の設定その他一切の処分（合併、会社分割等による包括承継を含む。）を行ってはならない。
    - 三 各出資者は、参議院の事前の書面による承諾を得た上で、その所有に係る事業者に対する株式に関する権利義務を譲渡しようとする場合、当該譲受人に、別紙 3 の様式による出資者誓約書をあらかじめ参議院に提出させる。
    - 四 事業者が株式、新株予約権又は新株予約権付社債を発行しようとする場合、各出資者は、これらの発行を承認する株主総会において、第一号に記載のある議決権保有比率の維持が可能か否かを考慮した上、その保有する議決権を行使する。
  - 4 代表企業及び構成員は、第 2 項に基づき、事業者が株式、新株予約権又は新株予約権付社債を発行しようとする場合、当該株式等の取得予定者に、前項各号に定める事項を誓約させ、別紙 3 の様式による出資者誓約書をあらかじめ参議院に提出させる。

（株主間契約の締結等）

- 第 6 条 代表企業及び構成員は、代表企業及び構成員とその他の出資者との間で、前条第 3 項各号に定める事項を含む内容について定めた株主間契約を締結し、その内容を証するため、当該株主間契約の謄本を事業契約の締結と同時に参議院に提出する。
  - 2 代表企業及び構成員は、出資者について変更が生じる場合、当該変更前の出資者に、前項に定める株主間契約に関して、当該新出資者を当事者に含める旨の変更を行う。なお、この場合においては、代表企業及び構成員は、当該変更後の出資者に、当該変更後の株主間契約の謄本を、変更後直ちに参議院に提出する。
  - 3 前項の変更を行う場合、代表企業及び構成員は、その他の出資者をして、当該変更に関与させるものとする。

(事業契約の締結)

- 第7条 参議院及び落札者は、入札説明書等及び事業提案書に基づき、参議院と事業者との間において令和〔 〕年〔 〕月〔 〕日を目途として事業契約を締結することに向けてそれぞれ誠実に対応し、最大限の努力をする。
- 2 落札者は、事業契約の締結に関する協議に当たっては、参議院の要望（参議院議員会館維持管理・運営事業（第二期）総合評価審査委員会から付された意見を含むがこれに限られない。）を尊重する。
- 3 参議院は、入札説明書等の文言に関し、落札者より説明を求められた場合、入札説明書等において示された本事業の目的及び理念に照らして、その条件の範囲内において趣旨を明確化する。
- 4 参議院は、本協定に関して次の各号の一に該当したときは、事業契約が締結される前であれば事業契約を締結しないことができ、事業契約が締結された後であれば事業契約を解除することができる。
- 一 本事業に関し、落札者が独占禁止法第3条の規定に違反し、又は落札者が構成事業者である事業者団体が同法第8条第1項の規定に違反したことにより、公正取引委員会が落札者に対し、同法第7条の2第1項の規定に基づく課徴金の納付命令を行い、当該納付命令が確定したとき。
- 二 本事業に関し、落札者に対し、刑法第96条の6又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき。
- 三 本事業に関し、落札者に対し、刑法第198条に規定する刑が確定したとき。
- 四 その他落札者が前各号に規定する違法な行為をしたことが明白となったとき。

(準備行為)

- 第8条 落札者は、事業者の設立の前後を問わず、また、事業契約の締結前であっても、自己の費用と責任において、本事業の実施に関して必要な準備行為ができ、参議院は必要かつ可能な範囲で落札者に対して協力する。
- 2 落札者は、事業者の設立に際して、設立以前に落札者が行った準備行為を事業者に引き継ぐ。

(資金調達協力義務)

- 第9条 代表企業及び構成員は、事業提案書に従い、事業者に出資するとともに、その他の出資者をして、事業者に出資させる。
- 2 代表企業及び構成員は、事業提案書に従い、事業者による借入れその他の事業者の資金調達を実現させるために最大限努力する。
- 3 代表企業及び構成員は、事業提案書に従って行う場合を除き、事業者の資本金の額を減少させてはならない。

(業務の委任等)

- 第10条 落札者は、事業者に、本事業に関する業務を、別紙4記載の者にそれぞれ委任し、又は請け負わせ、かつ各業務に関して、自ら受任者又は請負人として、事業者との間で委任契約又は請負契約を締結する。
- 2 落札者は、前項の規定により事業者から委任又は請け負った本事業に関する各業務を受任し、又は請け負う者をしてその業務を誠実に遂行する責任を負う。

(株式の譲渡に関する協力)

- 第11条 代表企業及び構成員は、参議院が事業契約の定めるところにより事業者の全株式（潜在株式を含む。）を参議院が承諾する第三者（事業者に融資する者が選定し参議院が承諾した第三者を含む。）に譲渡させることを選択したときは、代表企業及び構成員は自らを含む出資者に事業者の全株式（潜在株式を含む。）を当該第三者と合意した条件により譲渡させる。

(事業契約の不成立)

- 第12条 参議院又は落札者のいずれの責にも帰すべからざる事由により参議院と事業者が事業契

約の締結に至らなかったときは、既に参議院と落札者が本事業の準備に関して支出した費用は、各自が負担し、相互に債権債務関係の生じないことを確認する。

(談合その他の不正行為があった場合の措置)

第13条 本協定に関し、第7条第4項第一号ないし第二号のいずれかの事由が生じた場合は、事業契約の締結又は解除の有無にかかわらず、落札者は連帯して、参議院の請求に基づき、事業契約における契約金額（契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額。次項において同じ。）の100分の10に相当する金額を違約金として参議院の指定する期間内に支払わなければならない。

2 第7条第4項第二号の場合において、次の各号に掲げる場合のいずれかに該当するときは、落札者は連帯して、参議院の請求に基づき、前項に規定する契約金額の100分の10に相当する金額に加えて、事業契約における契約金額の100分の5に相当する額を違約金として参議院の指定する期間内に支払わなければならない。

一 第7条第4項第一号に規定する確定した納付命令について、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律第7条の2第7項の規定の適用があるとき。

二 第7条第4項第二号に規定する刑に係る確定判決において、落札者のいずれかが違反行為の首謀者であることが明らかになったとき。

3 前2項の規定は、参議院の落札者に対する損害賠償請求を妨げるものではない。

(遅延利息)

第14条 落札者が前条に定める違約金を参議院の指定する期間内に支払わないときは、落札者は連帯して、当該期間を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、当該未払発生時における国の債権の管理等に関する法律施行令（昭和31年政令第337号）第29条第1項に定める率の割合で計算した額の遅延利息を参議院に支払わなければならない。

(秘密保持)

第15条 落札者は参議院が秘密であることを示して落札者に開示した情報又は落札者が知得する際に参議院から秘密であることが示されていた情報については、本協定の有効期間中はもとより、本事業の終了若しくは中止、又は事業契約が解除された後においても、守秘義務を負うものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当する情報については、この限りではない。

一 開示を受け又は知得した際、既に落札者が保有していたことを証明できる情報

二 開示を受け又は知得した際、既に公知となっている情報

三 開示を受け又は知得した後、落札者の責によらずに公知となった情報

四 正当な権限を有する第三者から適法に取得したことを証明できる情報

五 参議院から開示された情報によることなく独自に開発・取得していたことを証明できる情報

六 第三者に開示することにつき、書面により事前に参議院の同意を得た情報（ただし、参議院が同意した特定の第三者に対して情報を開示する場合には、当該第三者に対する情報の開示についてのみ本条に規定する秘密保持義務が免除されるものとする。）

2 落札者は、本事業の終了時若しくは中止時、又は事業契約の解除時、第1項により落札者に開示された又は落札者が知得した情報を参議院に返却、再生不可能な状態に消去又は廃棄の上その旨を証する書面を参議院に報告するものとする。ただし、やむを得ず、返却、消去又は廃棄できない場合、当該情報のセキュリティを確保した管理について、参議院の承認を得なければならない。その場合であっても、原則として、5年以内に当該情報を返却、消去又は廃棄するものとする。

3 落札者は、第1項により秘密保持義務を負う情報の漏えい、滅失及び毀損等の事故が生じたときには、直ちに参議院に対して通知し、必要な措置を講じるとともに、その事故の発生から7日以内に、その事故の発生場所及び発生状況等を詳細に記載した書面をもって参議院に報告し、参議院の指示に従わなければならない。

(協定の有効期間)

第16条 本協定の有効期間は、本協定締結の日から事業契約に定める本事業の終了日までとす

る。ただし、事業契約の締結に至らなかった場合は、事業契約の締結に至る可能性がないと参議院が判断して代表企業に通知した日までとする。

- 2 本協定の有効期間の終了にかかわらず、第 12 条ないし第 15 条及び第 18 条の規定の効力は存続する。
- 3 第 1 項の規定にかかわらず、落札者は事業契約に規定する事業者の義務の履行が終了するまでの間、事業者を存続させ、本協定も事業者が存続する間は有効とする。

(協議)

第 17 条 本協定に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、必要に応じて参議院と落札者が誠実に協議して定める。

(準拠法及び裁判管轄)

第 18 条 本協定は日本国の法令等に従い解釈し、本協定に関する一切の紛争については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

以上を証するため、本協定書〇通を作成し、参議院及び落札者は、それぞれ記名押印の上、各 1 通を保有する。

令和〔 〕年〔 〕月〔 〕日

参議院

住 所 東京都千代田区永田町一丁目 7 番 1 号  
支出負担行為担当官

落札者

代表企業 住 所  
商号又は名称  
代 表 者

構成員 住 所  
商号又は名称  
代 表 者

協力企業 住 所  
商号又は名称  
代 表 者

別紙1 設立時の出資者一覧

事業者の資本金の額：【〇〇〇〇】円  
事業者の発行可能株式総数：【〇〇〇〇】株  
事業者の発行済株式の総数：【〇〇〇〇】株

出資者（代表企業）

商号又は名称【商号又は名称】  
出資額【〇〇〇〇】円  
引き受ける株式の総数【〇〇〇〇】株  
引き受ける株式の種類【〇〇〇〇】株式

出資者（構成員）

商号又は名称【商号又は名称】  
出資額【〇〇〇〇】円  
引き受ける株式の総数【〇〇〇〇】株  
引き受ける株式の種類【〇〇〇〇】株式

出資者（その他の出資者）

商号又は名称【商号又は名称】  
出資額【〇〇〇〇】円  
引き受ける株式の総数【〇〇〇〇】株  
引き受ける株式の種類【〇〇〇〇】株式

令和〔 〕年〔 〕月〔 〕日

支出負担行為担当官

参議院●●●●● 【〇〇〇〇】殿

【事業者の住所】

【事業者の商号又は名称】

【事業者の代表者】

増資計画書

参議院議員会館維持管理・運営事業（第二期）に関して、事業者は下記のとおり増資を計画しています。

記

設立時

事業者の資本金の額 : 【〇〇〇〇】円

事業者の発行可能株式総数 : 【〇〇〇〇】株

事業者の発行済株式の総数 : 【〇〇〇〇】株

増資後（新元号【〇〇】年【〇〇】月【〇〇】日）

事業者の資本金の額 : 【〇〇〇〇】円

事業者の発行可能株式総数 : 【〇〇〇〇】株

事業者の発行済株式の総数 : 【〇〇〇〇】株

増資する出資者及びその他の出資者

商号又は名称 【商号又は名称】

所在地 【住所】

代表者 【役職】 【氏名】

出資額 【〇〇〇〇〇】円

増資時に引き受ける株式の総数 【〇〇〇〇】株

増資時に引き受ける株式の種類 【〇〇〇〇】株式

令和〔 〕年〔 〕月〔 〕日

支出負担行為担当官

参議院●●●●●【○○○○】殿

### 出資者誓約書

参議院議員会館維持管理・運営事業（第二期）（以下「本事業」という。）に関して、参議院●●●●●【○○○○】（以下「参議院」という。）並びに【事業者の商号】（以下「事業者」という。）との間で、本日付けで締結された本事業に関する事業契約（以下「事業契約」という。）に関して、事業者の出資者である【代表企業の商号】、【構成員の商号】、【構成員の商号】、及び【その他の出資者の商号】（以下「当社ら」という。）は、本日付けをもって、参議院に対して下記の事項を連帯して誓約し、かつ、表明及び保証をします。

なお、特に明示のない限り、本出資者誓約書において用いられる引用符つきの用語の定義は、「事業契約」に定めるとおりとします。

### 記

1. 事業者が、令和【○○】年【○○】月【○○】日に会社法（平成17年法律第86号）上の株式会社として適法に設立され、本日現在有効に存在すること。
2. 事業者の本日現在における議決権の総数は【○○○○】個であり、うち【○○○○】個を【○○○○○】が、【○○○○】個を【○○○○○】が、及び【○○○○】個を【○○○○○】が、それぞれ保有していること。
3. 事業者の本日現在における株主構成は、当社らによって全議決権の2分の1を超える議決権が保有されており、かつ、当社ら以外の株主の議決権保有比率が株主中最大とはなっていないこと。また、当社らは、かかる条件を事業期間が終了するまで維持すること。
4. 当社らは、事業期間が終了するまで事業者に対する株式（潜在株式を含む。）を保有し、参議院の事前の書面による承諾がある場合を除き、譲渡、担保権の設定その他一切の処分（合併、会社分割等による包括承継を含む。）を行ってはならないこと。
5. 当社らは、参議院の事前の書面による承諾を得た上で、その所有に係る事業者に対する株式に関する権利義務を譲渡しようとする場合、当該譲受人に、本出資者誓約書をあらかじめ参議院に提出させること。
6. 事業者が、株式、新株予約権又は新株予約権付社債を発行する場合、当社らは、これらの発行を承認する株主総会において、第3号の議決権保有比率の維持が可能か否かを考慮した上、その保有する議決権を行使すること。

出資者（代表企業）

住 所 【○○○○○】

商号又は名称 【○○○○○】

代 表 者 【○○○○○】

出資者（構成員）

住 所 【○○○○○】

商号又は名称 【○○○○○】

代 表 者 【○○○○○】

出資者（構成員）

住 所 【○○○○○】

商号又は名称 【○○○○○】

代 表 者 【○○○○○】

出資者（その他の出資者）

住 所 【○○○○○】

商号又は名称 【○○○○○】

代 表 者 【○○○○○】

#### 別紙4 委任先一覧

##### ① 維持管理業務

住 所 【○○○○○】

商号又は名称 【○○○○○】

代 表 者 【○○○○○】

##### ② 運営業務

住 所 【○○○○○】

商号又は名称 【○○○○○】

代 表 者 【○○○○○】

※複数者で各業務を分担する場合は各者が担う業務内容を記載すること。